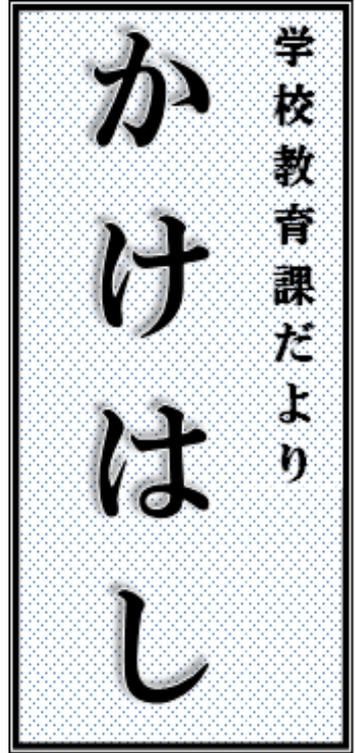


学校教育課だより

かけはし



学校教育課だより
「かけはし」
【第6号】
平成 27 年 10 月 13 日発行
御殿場市教育委員会



へみずみずしい感性を失わない教育を

—子どもの確かな成長を促し、支える「後期教育展望」を持つ—

教育長 勝又 将雄



異常気象の展開が続く中でも、今年の秋は昔ながらの秋らしい雰囲気の中で学校、地域の行事が進行してきたものと受け止めています。

ここ数年は地域の体育祭に出席する中で、小学校の運動会は見ることがありますが、今回、中学校の体育大会を久しぶりに見ることができました。まだ夏の日差しを感じた中で、中学生の本気勝負の姿はさすがしく、競技の応援も生徒仲間だけでなく、保護者地域の皆さんの熱き声援に

いたく感激しました。

秋といえば、運動もさることながら、これからの季節は、やはり文化行事も多く、学校生活の中に文化・読書の秋らしい風が吹いてきます。子どもたちのたくましい体と、しなやかな頭に豊かな心を本気になって育ててほしいと思います。まずは先生方の心身の健康が第一であることは言うまでもありません。

切ない事件・事故も発生しています。一部の者の思いがけない行い、振る舞いで、築

いてきたすべての正常な教育活動を否定されてしまうようなこともあります。あるべき姿として、「普通の教育実践」の中で、「教師以前に、人であること」を問われます。もともと教育は地道です。問われる教育成果にも長い時間を要します。それゆえに、日々の自己研鑽で、「教育活動の質」を問うことは忘れてならないと考えます。

この夏にある研修会の講師として、清水寺の貫主森清範さん(年度末に今年の文字を

書くパフォーマンスで有名が当市に見えられました。以前読んだ森清範さんの「女の子の話」を紹介します。小学生の女の子は、深い穴に落ちた友だちの危急を告げに走ってきて、こう言います。「友だちが高い穴に落ちた!」

穴に落ちた女の子を助け上げた先生たちは、口々に「高い穴でなく深い穴だね」と言い合ったと言います。しかし、一人担任の教師だけは「それいい」と言いました。

森さんは、「多くの大人たち人たちの、観音の慈悲心を忘れた証」だと言います。森さんは寺の貫主です。少女は無意識のうちに、穴に落ちて心細く打ち震える友だちの身になつて「高い穴」と言つた。まさに「慈悲心」に目覚めていたということだ、と。

そもそも教育者は、子どもに比べて大人は「自由な心」を失っていると自覚すべきです。目の前の子どもに、私たちは日々教えられ、共に「変容する」という「成長」を重ねています。それには私たち教師も水先案内人として、み

ずみずしい感性を失ってはなりません。こうした心を改めて思い起こして、この時期の一つの区切りをつけてほしいと願います。

何より四月の子どもたちの姿は半年で随分と変容しています。その変容を家庭の保護者より学校の先生の方がつぶさに見つめていることも少なくありません。学校生活の時間の長さや家庭生活の時間のバランスが、年齢に応じて変化していることは学校、家庭双方が認識しているものと思えます。

二学期制の前期締めくくりの時期とは、同時に後期の展望を持つこととなります。短い「秋」の区切りゆえに、学校、学級はそれぞれの経営の構想をもって、目の前の子どもたちの姿を、厳しくも温かく見守り続けています。

一年間の子どもたちの成長スパンを意識して、活動の締めくくりには「仕掛け」があるでしょう。学級、授業の再開においても「仕掛け」があるはずで、御殿場らしい、〇〇学校らしい子どもが主人公の後期教育活動の展開を期待しています。

「危機管理を考える」

学校教育課長

鳥越 雅幸

校では、日光方面への修学旅行の計画と重なり、延期した学校もあり、対応に苦

十月は、区切りとしては短い三日間の連休をはさんで、前期、後期の切り替えの時期を迎えます。後半戦のスタートです。重点目標、それを具現化するための学年目標、学級目標の達成状況はいかがでしょうか。学校評価を学年評価、学級評価まで落とし込んで、具体的な手立ての改善を構想することが大切です。それらを受け、次年度の学校経営構想もスタートします。

「命にかかわることは空振りをおそれない」これは、九月度教頭会での勝又教育長の言葉です。危機管理を考える上で大前提になる言葉です。

今年も、九月、北関東や東北の記録的な豪雨で、鬼怒川などの堤防が決壊して大きな被害が出ました。昨年も広島で大きな水害が発生しました。ヘリコプターから降りてきたワイヤー一本で救われる命の現場の様子は、記憶に新しいところです。ちょうど、小学

慮された学校も多かったと思えます。以前にも、東日本大震災や新型インフルエンザの流行に伴い、修学旅行等で、キャンセル対応を迫られることがありました。

危機管理を考える上で、自分ごととして考える想像力が不可欠です。御殿場小学校に勤めている時に、カインズホームの横を流れる川が増水し、萩原地区の一部に避難指示が出たことがあります。この情報を知ったのは、早めの下校を指示する直前だったので、避難指示が出ている地区を調べ、校内放送で該当児童を職員室に集め、保護者引き渡しで下校することに変更しました。情報を知らぬのが五分遅ければ、子どもたちだけで下校させていました。カインズホーム横の小さな川が氾濫することは想定外でした。

昨年、高根中学校に勤務しているとき、高嶺祭文化の部(文化祭)で「怒る富士」の

上演が終わり、校長室にもどった時に御嶽山の突然の噴火を知りました。以後、火山噴火について様々な形で報道されています。九月に阿蘇山の噴火の報道がありました。本市でも今年は、六年生の富士登山への対応を迫られました。火山防災は、広域避難計画に沿い、迅速に避難行動をとることが最も大切です。小中学校では、避難対象エリア、噴火警戒レベルに応じた児童生徒引き渡しの基本となります。火山防災では、噴石、降灰、空振などによる被害が想定されます。今後、各学校においては、児童生徒が自分の命を守るために、例えば、空振への対応として窓、カーテンを閉める、室内の中央に集まる、窓の少ない部屋に移動するなど、知識として体験的に身に付けていく必要があります。

危機管理の鉄則は

- さ…最悪を想定して
- し…慎重に
- す…素早く
- せ…誠意をもって
- そ…組織で対応

と言われています。

今年の秋から冬にかけて、ノロウイルスが変異し、人が免疫を持たない新たなウイルスとなつて、例年になく大きな流行の恐れがあるという情報があります。手洗い、消毒など例年以上の子防対策が求められます。



教育指導センター訪問記② 前期の訪問を終えて

わたしたちが、若手の教員の頃、先輩の先生方から言われたことが今でも心に残っています。それは「若いというだけで、魅力がある。授業がうまい下手よりその若さが児童生徒を引き付ける」ということです。同時に、「その若さという魅力が薄れていく間に、授業や指導技術の腕をあげなさい。」とも言われました。

今、講師や経験年数の浅い若手の先生方の授業参観をさせていただき、授業研修を共にするために学校訪問しています。そこで感じたのは、授業は、落ち度なく進め、教師の思いや伝えたいことを熱心に発信しています。その情熱

やひた向きさには、脱帽です。さて、今の時代も「若さの魅力」が、児童生徒から憧れの的となる状況だろうか？残念ながら、「若さ」だけでは、ついてきません。そこで、何をすべきか考えれば、当然「授業力の向上」が急務です。魅力ある授業を目指して……

一 訪問先の授業の共通点

- ①教師が教壇から動かないで、主導権を譲らない。
 - ②児童生徒の主体的な活動時間がほとんどない。
 - ③教師が「説明する」「解説する」「分かるように解いてみせる」など一方的に発信し続ける。
 - ④質問しても、一問一答の教師対児童生徒で、子ども同士の話し合い活動や考え合う活動がない。
 - ⑤「森を見て木をみていない」のたとえのように、学級全体の雰囲気はつかめても、個々のつまずきが見えていない。
- 誤解の無いように、申し上げますが、特に課題だと思っただけを書き出しました。どの先生も、一生懸命工夫した授業を展開しています。中

には、有名な塾の講師のようにユーモアを交えて、子どもたちに分かりやすく、丁寧な授業を展開している先生もいます。

二 目指す学力とは

① 個別の知識・技能の習得
「知っている・できる」レベル

② 概念の意味理解を問う、「わかる」レベル

③ 知識・技能の総合的な活用力を問う「使える」レベル

この三つの中で、いつも①の「個別の知識・技能の習得」(知っている・できるレベル)で精一杯な授業が多く見られます。だから、一斉画一の教え込む授業になりがちです。

②の「概念の意味理解」や③「総合的な活用力」を旨とする必然的に、班での話し合い、個別の考えをまとめて交流するなどの学習形態にもなるし、調べたり、観察・実験したりするような問題解決型の学習展開にもなると思います。

三 単元の重点化

カリキュラムマネージメントと言われています。すなわち、単元全体の時間枠の中でどの内容に時間をかけてじっ

くり考えさせるか。何を教えるか。徹底して全員に習得させることは何かを明確にして、授業を展開する。

四 板書は、重要な支援

学校で統一して「本時のテーマ」とか「課題」などが、黒板に用意されている。そこから板書がスタートして、本時の展開が系統的・構造的に書かれていく板書は、つまりいたり混乱したりしている児童生徒の大切な羅針盤です。

【土屋 英次】

御殿場市臨時的任用 教育職員研修会開催報告

八月二十五日、御殿場市臨時的任用教育職員研修会が開催され、三十八名の参加者により、研修を行いました。授業づくりや学級経営の基本を研修し、夏休み後に、新たな心持ちで子どもたちと向き合うことができることを目的として実施しました。

研修内容として、講義「夏休み後における学級づくり・授業づくり」講師 御殿場市教育指導センター 土屋英次 教育指導員、講義「ユニバーサルデザインの視点を取り

入れた授業づくり」講師 御殿場中学校 伊藤賢一 教諭の二つの講義を実施し、後半はグループ研修を行いました。

土屋教育指導員からは、教師自身がリフレッシュした姿で、児童生徒の前に立つこと、学級づくりは、「人づくり」であり、問題を解決できるスキルを体験させ、実社会での生き方や問題解決能力を培うこと、児童生徒理解を大切に、自治的な学級集団を目指すこと。授業づくりについては、児童生徒の相互の話し合い活動や探究活動を大切にすること、学習の進め方を習得させること等、授業の基本について具体的な実践法を基に指導を受けました。

【感想から】「登校初日に温かいメッセージを黒板に」とありましたが、教師の思いを伝える工夫をしていくことが大事であることを実感しました。

伊藤教諭からは、県総合教育センター長期研修員として特別支援教育の研修を深めたことを軸に、特別支援教育を意識した授業づくりについてご指導いただきました。

授業づくり (授業前の児童

生徒理解・教材研究、授業構想、授業実践、授業後の評価や改善等)において用意する支援や手立ては、「どの児童生徒も学びやすいように工夫すること」が大切であることや自発的な学習を促す支援について授業例を挙げながら指導くださいました。

【感想から】説明が大変分かり易く、これがユニバーサルデザインなのだと思身を持って感じました。授業づくりにおいて具体的にどのような点に気を付けたらいいのかが、明確になりました。

【福島英子】

幼稚園訪問記②

行事をとおして 子どもを育てる



《運動会総練習です》

総練習は、衣装や飾りを全部付けて本番と同じように競技・演技します。この準備がまた大変で、担任の先生も補助の先生も総がかりで準備と片付けに大わらわです。

子どもたちは先生方の手作りの衣装と小道具ですっかり「その気モード」です。

《A君》

わたしはA君に注目していました。彼は今、年長さん。年少入園時には、落ち着きのない行動が目立っていました。

集団に入らず一人で行動する。聞かれたことに答えない。帽子にこだわりのあつて一日中かぶり続ける。友達の手作っている粘土作品を踏みつけながら歩く。ひじをつけて寝転び、煙草をふかすまねをする(またそれがにくいほどサマになっている)。

彼はこの二年半で、本人のソーシャルスキルの向上と、家庭との連携、先生方のご指導のおかげで、少しずつみんなと関わり、一緒に行動できるようになってきました。

それでも、徒競走やリレーなど「出番」としてみんなの注目が集まる場面では天邪鬼のように動かなくなったり、わざと無気力な態度をとったりします。

《リレーは日常的な遊びの一端》

先生は、本人の性格を考え、春の段階から運動会まで実に

長い見通しを立てて指導を続けてきました。春から何回も「リレー遊び」を取り入れて「リレーは普通にやる遊びで、特別な舞台ではない」とをつかませ、やつと歩いてならばリレーに参加の段階にまでこぎつけました。

すごいと思ったのは、全力で走ろうとしないA君を、クラスのみんなが責めなかったことです。少しでも速く歩けば「今日、A君ががんばってくれた」と評価したのです。

《スキップならばリレーに出る》

こうして九月、彼は、リレーをスキップで参加するようになりまし。そしてクラスメイトの前で「運動会のリレーはスキップで走る」を約束し、みんなも了解してくれました。

さて、総練習は進み、次は運動会のクライマックス「年長児学級対抗リレー」です。いよいよA君が走り出しました。クラス中の応援の中、走っています。走りながら思い出したように途中でスキップに歩調を変化させます。走りスキップを混ぜながら走っています。わたしは、(いつのこと全部普通に走った方が楽なのに!)と思う

てしまいました。彼は一周をスキップ&ランで走り切り、しっかりとバトンを渡しました。春には走りもしなかった彼が、です。わたしはこの半年の彼の成長とクラスの子どもたちの支え、そして何よりも先生方の指導に感謝しました。

《えっ、これが最終種目じゃないの?》

さて、驚いたのはその後。「年長児学級対抗リレー」で総練習が終わったものだと思っていたのに、まだ、年中さんが入場の位置に着いているのです。「これで終わりじゃないんですか?」と聞くと、担任の先生が次のように教えてくれました。

「Aちゃんが本番のリレーで走らないことも十分に考えられますので、最終種目はAちゃんの好きなダンスにしようと考えました。それでプログラムを変更しました。」

この言葉を聞いて、四十年近くの教職人生で作られてきた「運動会」は最高学年の学級対抗リレーで締めくくるとい、うわたしの概念はもろくも崩れました。子どものためなら、運動会のプログラムの変更もありなのです。周りの子ども

たちも育てながらこんな手立で、Aちゃんを大事にしてくれているのです。

運動会前日、作業に行つたわたしは、気がかりなのでもう一度A君のことを尋ねました。「約束が変わつて、『徒競走はスキップで走り、リレーは走る』と宣言し、みんなも支持してくれた。」とのことでした。

《ネットニュース》

いよいよ運動会当日、わたしは五つの園の運動会を駆け足で回り、最後にA君の園に着きました。しかし、残念なこと

にすでに学級対抗リレーは終わったところでした。担任の先生に聞くと、「Aちゃんは徒競走もリレーも普通に走り切りました。走つたらけっこう速いんです。」と嬉しそうに報告してくれました。本人も満足げな表情で最後のリズムの衣装に着替えているところでした。

「ごだわりが強く集団に適応しにくい子どもに少しでも自信を付けるために、運動会のプログラムを思い切つて変更する。こんな園の先生方の柔軟な発想に頭が下がりました。」



【勝又 立雄】

前教育委員長 退任のあいさつ
小見山 司朗 様

教育委員を拝命してから
一期四年の歳月が過ぎ、この
九月で任期満了となり、次の
委員の方に道を託すことにな
りました。委員在任中は、教
職員の先生方や事務局の方々
の教育にかける熱い情熱に支
えられ、職務に専念できたこ
とに改めて感謝申し上げます。

学校を構成する三要素は、
子ども、保護者、教職員です。
ここで大きくものをいうのは、
「信」の一言です。人は、信
用・信頼しているからこそ、
話を聴くのであり、不信感を
抱いている人には、誰も耳を
貸しません。

「やってみせ、言つて聞かせ
て、させてみせ、褒めてやら
ねば、人は育たず」、「やつて
いる姿を感謝で見守り、信頼
せねば人は実らず」

御殿場の子どもたちは、素
晴らしい児童生徒がたくさん
います。この子どもたちの将
来を位置付ける役目を担つて
いるのが、教職員の方々です。
わたしは、委員の職を解か
せていただきましたが、これ

からは、社会的役割を担い、
メタボに注意しながら生活を
していきたいと存じます。終
わりに皆様のご健康と
ご活躍を祈念し、退任のあい
さつとさせていただきます。

新教育委員 就任のあいさつ
勝又 綾子 様

この度、囃らずしも教育委
員を拝命し、職責の重大さ
をかみしめています。本紙「か
けはし第四号」を拝読します
と、教育現場の最前線で力強
く活躍する先生方の息遣いが
伝わってきました。諸課題・
諸問題への対応もさることな
がら、日々の授業の充実を目
指した研修に加え、学習指導
要領の改訂に備えた研修、研
修体制の整備の状況等々、御
殿場の教育の「今」がぎゅつ
と詰まっています。

これからは、教育委員とし
て、教育の動向を学び直す
とともに学校や子どもたち、保
護者や地域の声に耳を傾け、
真に子どもたちのためとなる
教育の一層の充実を願い、努
力していきます。よろしくお
願いいたします。